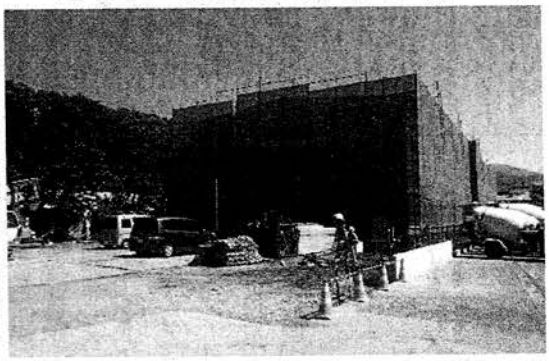
三益、メンテ事業参入

冷間ロール成形ライン エンジ増員、保守・改造

【横浜】三益（神奈川県伊勢原市、宇野祐二郎社長、0463・92・5551）は、冷間ロール成形ラインと造管ラインのメンテナンス事業に参入する。9月に本社工場を県内の秦野市に移転するのに合わせて、設備診断や設計などを担当するエンジニアリング部門の社員を増員。機械設備の修理や改造を行うスペースも確保する。2021年3月期をめどにメンテナンス事業で2億円、会社全体では7億円の売り上げを目指す。

三益はパイプ製造に使う圧延機や造管機のメーカーでレトロフィットと呼ばれる古い機械の修理や改造も手がけている。冷間ロール成形機や造管機のメーカーが廃業などで減少する中、既存設備を有効活用するため機械の保守や修理、改造といった需要が増えると判断した。



神奈川県秦野市に建設中の新工場

新本社工場は鉄骨構造の2階建てで、延べ床面積1299平方㍍。造管機などの製造に加え、長さが60㍍ある建屋を生かして二つのラインのメンテナンス事業を行う。設計などを担当する社員を数人増員し、2次元コンピューター利用設計・製造（CAD／CAM）などのツールも増やす予定。

これまで自社製ラインのみのメンテナンスを手がけてきたが、他社メーカーの廃業や経済停滞に伴いユーザーが新規投資などで既存設備を使用するため機械の改造の相談が増えた。「（事業として）から手応えがあった」（宇野社長）という。国内外5年以上の実績ロール成形機や造管機械や設備の創業。16年3月期の売上高は約4億